

議 事 概 要	
会議の名称	令和7年度第2回長久手市地域保健対策推進協議会
開催日時	令和8年3月6日(金) 午後2時から午後3時25分まで
開催場所	長久手市保健センター 3階会議室
出席者氏名 (敬称略)	委員 加藤 潤司 川本 さつき 川本 玲美 横井 英臣 横山 智絵子 松永 昌宏 安藤 京子 古橋 完美 近藤 高明 中原 亜希子 廣中 省子 事務局 福祉部長、健康推進課長、同課課長補佐兼健康推進係長、同課成人保健係長、 同課健康推進係専門員 子ども部次長、子ども家庭課長、同課母子保健係長、同課母子保健係主任
欠席者氏名 (敬称略)	駒村 和廣 森下 雅史
会議の公開・非公開	公開
傍聴者人数	なし
審議の概要	保健事業報告と次年度の予定について (1) 成人保健事業 (2) 母子保健事業 (3) 予防接種事業 (4) 健康づくり事業
問合先	長久手市福祉部健康推進課 電話 0561-63-3300
備考	
議 事 録	
1 会長挨拶 近藤会長より 2 議題 (1) 成人保健事業について 事務局説明	

スライドに基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 令和8年度のがん検診は、予約が必要ないとなると、受診者数は把握できるか。今までは市に予約をするので、受診者数が把握できると思うが、直接医療機関に受けに行くことになるとどのように把握するのか。

事務局 今年度までの流れとしては、市に予約後、市から受診票を発送、その受診票を持って受診という流れであった。来年度からは、市から発送した受診券を持って病院に行き受診する流れに変更するため、市への予約の必要がなくなる。検診を受けた結果が、医療機関から市に報告される仕組みは変わらないので、受診結果や受診者数の把握は今までどおり可能である。

委員 肺がん検診について、喀痰検査をやらないということはレントゲンだけとなるのか。

事務局 そのとおりである。

委員 子宮検診について体部検査をやらないということは頸部だけということか。頸部と体部は同じ子宮といっても全然違うものだと思うが、体部検診は具体的に今まで何をやっていたのか。

事務局 子宮は入り口部分を頸部、奥は体部というが、どちらも細胞を採取し、癌になりそうな細胞がないか調べるという検査である。体部は加齢によってその細胞が取りにくくなることもあるなど、全員に実施が適当というものではない。死亡率減少効果が科学的に示されているの頸部検診のみを令和8年度からは実施する。どの部分でも検査をすればある程度異常が見つかる人がいるが、死亡率に関わりのない小さなものや、治療の必要のないものを見つけてしまうこと、要精検の判定が増え過ぎてしまうという不利益もあると言われているため、市としては死亡率減少効果が厚労省で確認されている5つのがん検診の実施に努めていくことを方針として実施している。

委員 フレイルという言葉がよく使われている。資料にも口腔フレイルとあるが、少し前まではロコモティブシンドロームが使われていたが、最近あまり言われなくなった。

事務局 ロコモティブシンドロームは、運動器症候群のことで骨や筋肉、関節などの障害で移動機能が低下すると要介護や寝たきりのリスクが高まるため、その状態にならないように筋肉、筋力をつけて骨粗鬆症も防ぎましょうという概念である。フレイルは可逆性のある状態と言われていて、健康と要介護の間の中間の状態である。放っておくと要介護になるかもしれないがまだ戻れる状態なので、できるだけ早く見つけて元の状態に戻すという概念である。長寿課など高齢福祉の分野でもロコモではなくてフレイルをなるべく見つけて支援していくという動きをしている。身体だけではなく口の状態としても、口腔機能低下の入り口のところをオーラルフレイルと定義しており、早期発見して支援していくという考え。食べる、話すといったことは生活の機能としては大事な部分になる。

委員 二人のうち一人ががんになる時代だが、全国的に検診の受診率が悪い自治体がたくさんあるということを聞いた。どうすれば受診率が上がるのかという特集をテレビでやっていて、啓発をした直後に検診の受診票を送るという方法に取り組んだ自治体の中に長久手市も入っていた。私自身も案内が届いて、検診に行かなければと思っていたが、やはり気がついたら終わっていた。集団検診に来た時にできる検診は全部やっているが、それ以外の別の日の検診だとやはり抜けてしまいがちなことがある。勸奨通知のはがきを出した結果はどうだったのか。

事務局 テレビが放送される時期に合わせて勸奨はがきを発送し、検診受診を促した。タイミングよく送ることで、予約する人が増えたという印象がある。テレビなど何かと連動して実施すると受診に繋がりやすいのではという実感はある。受診しようと思った時に市に予約して、次は病院に予約して、といったように段階がいくつかあると、時間がかかり、受けようと思った気持ち低下してしまうことも考え、来年度に向けてさらに受診しやすい環境を作っていく。4月中旬以降に受診券を郵送するが、分かりやすい手紙の作成に努めている。女性検診は6月からとして、実施期間を2か月を延ばして対応していく。長久手市では集団検診と個別検診の2通りで実施していることが強み。市役所で受けた方、普段かかっている病院で受けた方、それぞれの希望に合わせて受診できるようにしている。

(2) 母子保健事業について

事務局説明

スライドに基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 妊婦のための支援給付について、令和7年度から、8か月頃にアンケートを送付して面談や電話等を全員に実施しているということだが、全員に実施することで得られた成果、手応えはあったか。

事務局 心配な方には以前から電話で支援をしていたが、8か月頃にこちらから全員に電話をすることで、本人は心配していなくても保健師が心配だなというケースも出てきた。そういった意味では、非常に効果があるものではないかと考えている。特に妊娠8か月、9か月は出産直前なので、出産準備できているかなど保健師が確認することによって、妊婦自身も支えられているという気持ちを持つ方も多いのではと考えている。

委員 全員に実施することは大変だと思うが、妊婦も安心できるし、出産後フォローが必要になった時にも繋がるものだと思うので、ぜひやっていただきたい。

委員 産後ケア事業について委託する事業所を募集しているようだが、助産所や医療機関になるのか。

事務局 令和7年度まではその都度申し込みのあった事業者と契約しており、12業者になる。数が多く、年々増えているため管理がすごく大変な状態である。しっかりと管理し、どのような事業所か把握するため、令和8年度の契約から電子申請を取り入れることにした。募集要項を作成し、事業計画書なども事業者につってもらうことで、市としても分かりやすい状況にしていきたい。今回募集することによって新たに手を上げてくれる事業者もいる。事業者は産科のある医療機関であったり助産所になる。産後ケア利用方法について、他市では、利用する人がクーポン等を持って直接医療機関や助産所に電話して予約するという方法もあるが、本市では、市の保健師が間に入って調整することで、利用する方の状況把握ができ産後ケア施設での状況のフィードバックも得ることができる。

委員 質の管理といったことも可能になっているということか。

事務局 そのとおりである。

(3) 予防接種事業について

事務局説明

スライドに基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 HPV ワクチンについて男性を対象にした助成が市町村によっては始まっているようだが、長久手市はどうか。

事務局 男性への助成について、始めている自治体があることは承知している。任意接種になるため、今のところは実施という話が出ていない。

委員 男性の場合だと別の疾患の予防なのか。

事務局 肛門がんなどの予防になる。

委員 RS ウイルスの予防接種は、妊婦対象で今まで実施していないもの。A 類なので努力義務になる。市として勧奨の仕方を工夫しているか。

事務局 RS ウイルスは今までは任意接種であった。任意接種では自己負担が 3 万円を超える金額ということもあり接種される方が少なかった。今回、定期接種で努力義務となるので市としても接種率を上げることを考えなければならない。多くの自治体が母子健康手帳交付の際に RS ウイルス予防接種の予診票を渡して接種につなげていくことを予定しているが、接種時期が妊娠 28 週から 37 週までのため、母子健康手帳を渡してから期間があいてしまう。予診票の紛失や接種忘れを防ぐため、長久手市では母子健康手帳交付時にも周知をするが、妊娠 24 週ぐらいの時期に個別通知をする。それで接種率が上がることを期待している。

委員 帯状疱疹のワクチンは 2 種類あるが、圧倒的にシングリックスが多い。2 回接種しなければならないし値段も高いが、シングリックスの方が効果が高いということで、市民にも知識が広まっているということだろうか。

事務局 シングリックス 1,169 件というのは、2 回接種なので実人数でいうと半分ぐらいである。任意接種でのビケンの R 7 年度実施状況は、7 人と少なかったが、定期接種では 86 人だった。任意接種でも受けたいと思われる方は、高い金額でもシングリックスのほうを選ぶ方が多いが、市から定期接種の案内が届いて接種しようという方は、1 回 7000 円、2 回で 1 万 4000 円は高いと感じる方もあり、2,500 円のビケンを選択しているものと思われる。任意と定期と両方やってみて、定期接種となると値段で選択される方も一定数いるという結果と考えられる。

(4) 健康づくり事業について

事務局説明

スライドに基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 喫煙防止教室で参加児童が 503 人ですごい数だが、どのように集めたのか。私自身スポーツに関する体験を行っているが 500 人も集まるようなイベントはなかなか作れないので、ノウハウみたいなものがあれば教えてもらいたい。

事務局 喫煙防止教室は、依頼のあった市内 3 校で対象となる学年に実施している。養護教諭と調整して実施日に対象の学年の児童を集めて行っている。例年 5 年生か 6 年生に実施している。

委員 集めるのに工夫していることはあるのか。

事務局 講師の先生に講話資料を作成依頼しているが、日程調整は早めに行っている。授業も時期に

よってカリキュラムが決まっていたりするので、学校とも早めに日程調整している。

委員 場所はどこで実施したのか。

事務局 学校の体育館や学校内の広い部屋を使用することが多い。

委員 心不全の講話は専門的で難しい話ではないか。心不全マーカー測定はどのように測るのか。

事務局 心不全マーカーは、胸部にパッドを貼って、パソコンのマウスぐらいの機器を乗せ、そのまま一定時間横になって安静にしていると測定できる。講話自体は難しい内容の話だが、先生が分かりやすく話してくれた。専門的な話を聞きたいというニーズもあり、講話が終わった後もいろいろな質問がされていた。先生から心配な時には病院受診できますと言ってもらえたこともあり、参加された方は満足されていた。

委員 採血をするわけではないのか。

事務局 そのとおりである。採血ではない。

委員 健康講座の測定会などで、単発で結果は見えるが、健康づくりにはやはり毎日の積み重ねが大切である。市の事業として健康講座を行って、毎日のフォローアップをするのは民間企業やスポーツクラブとかの力が必要になると思うが、市と民間の連携はどうなっているのか教えていただきたい。

事務局 健康講座を開いて、その時に色々な情報を発信することはできるが、継続して取り組んでいただくのが健康づくりには大切であると感じている。協定を結んだ企業や色々な団体に協力してもらい、定期的に取り組める方法や効果測定などを取り入れていきたい。啓発についても、市だけで行うより色々なノウハウを持っている団体や民間企業と一緒に取り組むことで関心が高まり、満足できる内容になるのではと考えている。

委員 健康づくり計画の中の「誰もが自然に健康になれる環境づくり」については、まちづくりとして取り組んで、その中に健康づくりを位置づけるという発想だと思うが、具体的に活動の進捗状況を教えてほしい。

事務局 「誰もが自然に健康になれる環境づくり」について、これがこう達成しましたというように表現するのはとても難しいところがある。例えば、市の事業でも健康づくりが目的ではなく、色々なテーマで取り組んでいるところがあるので、それと健康づくりを結びつけていきたい。市役所以外の場所で実施している事業、企業が主催で実施している事業などとも協力し、結果として体とか心とかの健康づくりに繋がったという事業を増やしていきたい。事業評価として、これをやったからこうなりましたっていうのを出せないところが課題であると感じている。

委員 まだ第3次が始まったばかりなので、これから分かるようにしていくとよいのでは。

委員 こころの相談室はいつでも相談できるのか。それとも時間等設定しているのか。

事務局 精神保健福祉士のいる月曜日から金曜日の午前9時から午後4時まで実施しているが、それ以外の時間も、保健師が相談に対応できる体制にしている。

委員 数字を見るとリピートで相談があるようだが、実際にこういった支援に繋がったとか、他の方と連携して支援につながったとか、そういった事例はあるか。

事務局 相談を受ける際に、最初に電話で予約される方が多いので、例えばその方に小さいお子さんがいる場合には、子ども家庭課と連携をしたり、過去に、引きこもりの状態にある方のご家族から相談のあった場合には、福祉サービスに繋がる可能性を考え、福祉の部署の中で事前に情

報共有するなどして対応したこともあった。

委員 ゲートキーパー養成講座の「若者を支援する方を対象」は具体的にどういう方だったのか。この養成講座は公募していたのか。ゲートキーパーを長久手市としてここまで人数を増やしたいという目標があれば教えていただきたい。

事務局 広報等で市民の方に周知し、市役所職員にも周知した。子どもや教育関係の部署、普段子どもや若者と接する機会のある方に出席してもらった。講師は、愛知医科大学看護学部の精神保健の専門の先生をお願いした。講師は普段学生と接していることもあって、若者から得る情報等が講義の内容に含まれていたの、出席者への事後アンケートでも、若者の現状や起きている問題等について知ることができた、という回答もあった。ゲートキーパー養成講座の受講者数について、増やすことは目標にはしているが、何人という形ではあげていない。今年度から、受講者については受講証明と缶バッチを渡してリスト化している。なるべくたくさんの方に聞いていただきたい。市役所の職員にも毎回声をかけて、意識が高められるようにしていきたい。

補足として、ゲートキーパー養成講座として行くと、何の講座なのか伝わりにくい。命の門番とも位置づけられているが、重い感じがするので、今年度は「若者の心の SOS をうけとめるには」というテーマにした。心のことに興味ある方だけでなく、若者支援に関心が高い方にも参加してもらえるように募集したところ、学校関係等子どもの支援に関わっている方に受講していただいた。令和 8 年度の予定としては、今年度実施した愛知県立大学との情報交換や、保健所の会議で長久手高校の養護教諭とお会いする機会があり、その後交流ができたので、長久手高校とも情報交換を進めていきたいと考えている。メンタルヘルスはどの世代でも問題に思っている方が多いので、学校とも連携して実施していきたい。色々な人が精神保健に関して考える機会を作っていくことで、市全体として自殺対策を進めていければと考えている。

委員 子どもを対象とした活動をしているため、非常に興味を持って聞いていた。ゲートキーパー養成講座を受けて缶バッチをもらった方が、市職員や子ども関係のことをやっている方であったことは理解した。講座を受けた大学生が、どういうところでどんな活動を通して、講座で得た知識を活用するのかということがすごく大事なことだと思う。子どもの成長モデルとなる人たちがどう自分に接してくれるかということはすごく大切なことなので、こういう知識を持った人が増えるのはいいことである。せっかく得た知識をどういう場で生かしているのかという実践報告は掴んでいるのか。

事務局 今回は大学から依頼があり、主に各サークルの代表の方に参加してもらった。事前の質問では、話を聞く方法を知りたい、気になる人への声かけ方法を知りたいなど具体的に書かれていて、関心の高さが伺えた。今後は、受講後活用できているかなど、聞いていくことも考えていきたい。

委員 実施後の評価にも関わってくると思うのでお願いしたい。

(午後 3 時 25 分終了)